

設備工事情報シート	設備	I-P-50-改 ₂	制定	2007年4月1日
			改訂	2019年3月1日

施工要領	ヒートポンプ式電気給湯機	パナソニック編
------	--------------	---------

1. 目的・概要

オール電化住宅の普及により、ヒートポンプ式電気給湯機の工事が増えてきているなかで、認識不足による不具合を防止するには施工前に採用メーカーの施工上の注意点を確認する必要があります。

以下にパナソニック株式の施工要領及び施工ポイントを紹介する。

2. ヒートポンプ式電気給湯機の設置工事上の注意点

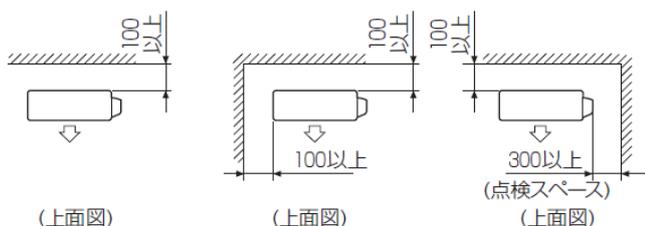
(1) 貯湯槽の据え付けに関しては、国土交通省告示第1447号に記載された以上の転倒防止措置を行う

- ① 脚部は、M12おねじアンカーボルト（埋め込み長さ60mm）4本で固定する。
- ② 2階以上に据え付けの場合は、メーカー指定の上部固定金具で頭頂部をM10おねじアンカーボルト（埋め込み長さ45mm）2本で固定する。

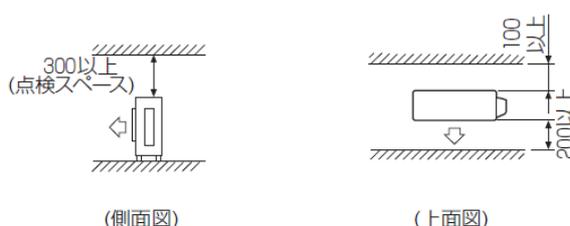
(2) 貯湯タンクをメーターボックス等に据え付ける場合は換気口を設ける。（上下各100cm²程度）

(3) ヒートポンプの据え付けに関しては、ショートサーキットを防ぐために下記の据え付け所要スペースを守る。

吹出側に障害物がない場合



吹出側に障害物がある場合



3. ヒートポンプ式電気給湯機の配管工事上の注意点

- (1) ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間のヒートポンプ配管を正しく接続する。
ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の配管は、各々A(水側)・B(湯側)を間違えないで接続する。
※間違えると給湯機が異常停止する。
- (2) ツインチューブ配管は、使用しない。それぞれ独立したシングル配管を使用する。
(ツインチューブを使用すると行き配管と戻り配管で熱交換して正常な沸き上げが出来ない)
- (3) 樹脂配管を使用する場合は、紫外線劣化を防ぐために接続部は必ず遮光する。
- (4) 配管長は、下記のとおりとする。

●ヒートポンプユニット配管

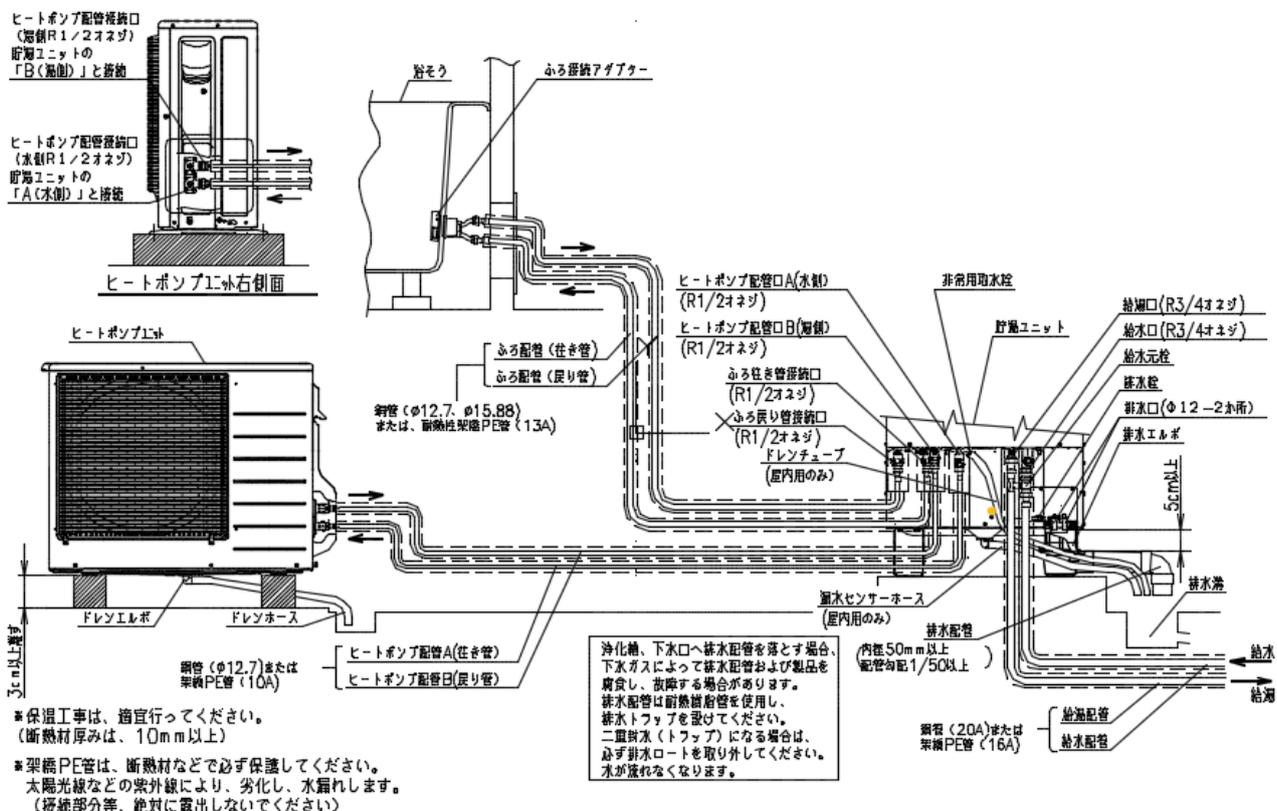
材 料	配管長	曲がり(片道)	断熱材の厚さ	
銅管	φ12.7	~5 m	5か所以内	10 mm以上
	φ12.7	5~15 m	6か所以内	20 mm以上(屋外) 10 mm以上(屋内)
耐熱性架橋PE管	10A	~5 m	5か所以内	10 mm以上
	10A	5~15 m	6か所以内	20 mm以上(屋外) 10 mm以上(屋内)
アルミ三層管	10A	~5 m	5か所以内	10 mm以上
	10A	5~15 m	6か所以内	20 mm以上(屋外) 10 mm以上(屋内)

●ふろ配管

材 料	配管長	曲がり(片道)	断熱材の厚さ	
銅管	φ12.7	~5 m	3か所まで	10 mm以上
	※φ12.7	~6 m	5か所まで	
	φ15.88	5~15 m	10か所まで	
架橋PE管	13A	~15 m	10か所まで	

- (5) ヒートポンプ配管の長配管は、メーカーに問い合わせる。（条件により最長25mまで可能）
- (6) 排水は、吐水口空間（50mm）を設けて間接排水を行う。（SHASE-S206給排水衛生設備工事基準）
- (7) 貯湯ユニット排水は、雨水排水に接続せずに汚水・雑排水管に接続する。
この時に下水ガスによる腐食を防ぐためにトラップ等の設備を設ける。
- (8) 排水管は、耐熱配管を使用する。（最大90℃以上の熱湯が流出する。）
- (9) ヒートポンプユニットのドレン排水は、必ず排水等に流す。

4. エコキュート配管図

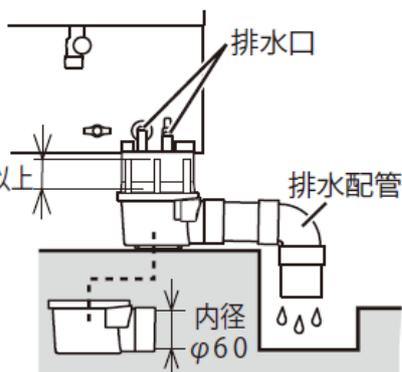


5. 排水工事

排水の処理

(SHASE-S206 給排水衛生設備基準)

吐水口空間50mm以上



- 排水経路には、必ず5cm以上の吐水口空間を設けて、間接排水してください。
- 25L/分以上の排水ができる配管であること。
- 排水配管は、90℃以上の耐熱を有する材料を使用してください。

6. 問い合わせ先

パナソニック オール電化相談センター TEL : 0570-081-061